

# 将来を見据えた維持管理について

～市民とともに～

## 1. 市の紹介

東広島市は、広島県の中央地域に位置し、1974年4月に賀茂郡内の西条町、八本松町、志和町、高屋町の4町が合併し、広島県内で12番目に誕生した市です。2005年2月には、近隣の黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町及び安芸津町と合併し「未来にはばたく国際学術研究都市」をめざし、人口約18万人の新しい東広島市としてスタートしました。

本市の中心地である西条は酒どころとして有名であり、杜氏の三浦仙三郎氏による軟水醸造法の発明と指導普及により、全国清酒品評会（現在の全国新酒鑑評会）で上位を占め、灘、伏見とともに



「酒蔵通り」

に全国に名が知られるようになりました。狭い地域に多くの酒蔵が軒を連ねて並ぶ「酒蔵通り」には、白壁やなまこ壁、赤煉瓦の煙突など独特な建物が並んでいます。毎年10月には「酒まつり」が催され、20万人を超える観光客が訪れています。

市内には、広島大学など4つの大学のほか9つの高校等があり、これらを中心として国際学術研究都市づくりを進めております。また、本市は広

島市に隣接し、山陽自動車道など交通網の整備が進んでいることからベッドタウンとして、現在でも人口増加が続いております。大学教員や留学生、研修生等の外国人も増加し、外国人の推計人口は4,786人（2010年9月末）であり、人口の約2.6%を占めております。

## 2. アセットマネジメントに関する取り組み状況

本市は約2,200kmの市道の中に1,373本の橋梁や、2本のトンネルなど多くの道路構造物を管理しております。これらの寿命は、一般的に概ね50年から60年程度とされていることから、高度成長期に整備されたこれらの道路構造物が、今後、一斉に老朽化し、修繕や架け替えなどの費用が増大することが予想されています。

そこで、これらの構造物を資産としてとらえ、点検を行って現在の状況を客観的に把握、評価し、中長期的に資産の状況を予測するとともに、何時、何所に、どのような対策を行うことが最適であるか計画を定める必要があります。その計画を基に計画的な修繕や架け替えを行うことにより、構造物の長寿命化並びに修繕及び架け替えの費用の縮減を図りつつ、道路網の安全性、信頼性を確保することを目的として、平成19年度から橋梁点検調

東広島市長 くら た 藏 田 よし お 義 雄



査を実施し、平成22年度には全橋梁の調査を完了する予定としております。

また、長寿命化修繕計画については、平成20年度から策定しており、この計画の中で早期に対応が必要とされている橋梁につきましては、平成21年度から修繕・補強工事を実施しているところです。

### 3. 維持管理作業報償金制度の概要について

この制度は、道路・河川の維持管理につきまして、すべて市で実施することが財政的に困難なことから、地域ぐるみの活動として道路や河川等の清掃、草刈り、河川や排水路の堆積土砂の撤去などを行っていただいた場合、その地域、団体に対して報償金を交付する制度であります。

報償金の額は、それぞれの申請地域・団体の構成世帯数を上限とし、4時間を超える作業につきましては、1人当たり700円、2時間以上4時間未満の作業につきましては、1人当たり350円、これに写真代の1,500円を加えた額としています。また、交付回数につきましては、道路の作業については年2回、河川については年1回として実施団体等を実施しております。

また、報償金交付申請をされた団体等が実施する作業時における事故に対応するため傷病・賠償保険に加入しております。

### 4. 制度の取り組み状況と成果について

美化作業につきましては、市民の皆様が美化作業の趣旨を理解され、地域における奉仕活動に積極的に参加されていることから、平成19年度で836団体、約45,000人、平成20年度で901団体、約46,000人、平成21年度で915団体、約48,000人となっており、実施団体並びに実施者とも増加している傾向にはありますが、地域によっては高齢化が進んだりコミュニティ活動が活発ではない地域も多くなったこと等から減少傾向にある地域も見受けられます。また、草刈作業に伴う石跳ねによる破損・けが等の事故も平成20年度で7件、平成21年度で11件と増加するなど、課題も多く残っております。

今後の取り組みにつきましては、課題を整理しながら、市民の方々が自ら



市民による美化作業

の地域環境を良くするという意識の向上と自主性を促すため、また、市民協働のまちづくりを推進していくうえで有効なこの美化作業を引き続き推進して参りたいと考えております。